

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	7月	17日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻		
取材対象先	香芝市：宝樹寺（ほうじゅうじ）の木造阿弥陀如来坐像及両脇侍立像				

所在地	香芝市五位堂4丁目286-1				
所有者（取材 対応者）名	宝樹寺（宝樹寺 中村勝胤住職）（個人情報守秘）			連絡先 0745-77-2098	
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：宝樹寺				
市町村 指定文化財	彫刻	3 軀	木造阿弥陀如来坐像及両脇侍立像		1995(平成7)年3月9日指定
	建造物	棟			
文化財指定理由	香芝市内最古の三尊像で、保存状態も良く、当地域を考えるうえで貴重な仏像であるため。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	鉄筋コンクリート造りの本堂に安置されており、近隣住民にも広く開放されているため、消火器等の防火対策は十分に取られている。	周辺道路が狭いため消防車が入りにくいことが気になるが、ご住職在住で十分な防火対策が取られているので、問題無いと思われる。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	住宅地の中に所在しているので、獣害は無し。	問題無し。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	取材対象の阿弥陀三尊像は、専称寺の十一面観音菩薩立像と共に1995年（平成7）に香芝市指定文化財第1号となり、その時に修復されたとのことで、とてもきれいな状態で保存されている。仏像が安置されている本堂は、1968年（昭和43）に現在の鉄筋コンクリート建てに改修され、その後55年経過しているため、コンクリートの耐用年数が気になるとのこと。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

毎週水曜日に本堂を子どもたちに開放して思い思いに過ごさせておられるなど、地域に親しまれているお寺であるが、時代の流れで檀家軒数は減少しているとのこと。地域で支えていけるようなシステムが出来ないものかと思う。また、本尊の隣に、とても珍しい優美なお姿の見返り地藏菩薩立像が置かれている。當麻の中将姫伝説とのつながりもあり、こちらの指定も望むところである。

市町村指定文化財取材票〈裏〉

取材日	2023年	7月	17日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻		
取材対象先	香芝市：宝樹寺（ほうじゅうじ） 木造阿弥陀如来坐像及両脇侍立像				

〈写真撮影許可済み〉

文化財指定名 木造阿弥陀如来坐像及両脇侍立像

文化財（正面写真）	文化財（角度を変えて、写真）
 <p>宝樹寺</p>	 <p>見返り地藏菩薩立像</p>
 <p>文化財の由緒などを記入</p>	 <p>所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入</p>
<p>宝樹寺本尊の阿弥陀如来三尊像で、三軀とも桧の寄木造。中尊の阿弥陀如来坐像は、定朝様式の穏やかな相好と肢体等から、平安時代後期の造立と見られる。脇侍の観音菩薩立像と勢至菩薩立像も平安時代後期の造立だが、中尊より少し後に造られたと考えられ、元々は別々の仏像だったかもしれないとのこと。また、香芝市内「別所」にあった阿弥陀堂から移されたとの伝承がある。</p>	<p>創建は奈良時代に鑑真和上招聘に成功した大安普照国師で、聖武天皇の請願により開山されたと伝わる。また、大伴金村の末裔が五位の官位を奪われて死去した際、その妻が邸宅をお堂に改修したことから「五位殿」の号を持ち、「五位堂」の地名の由来になったという。一時廃れていたが、1620年頃に専誉上人によって復興され、1874年（明治7）に現五位堂小学校の仮校舎とされた。</p>